

ICTの活用により教育の質的転換へ



Society5.0*という新たな社会の出現に向けて、ICTの特性を活かして学びの質的転換に取り組んでいきます。子どもたち一人ひとりが自らの将来の姿を思い浮かべ、その姿を実現するために必要な学びにICTを活用しながら取り組んでいきます。

*Society5.0とは、人工知能、ビッグデータ、IoT等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられる社会

急激な変化が予想されるこれからの時代を生き抜くために、教員の指示を待つのではなく、**自ら問いを見出し、自分なりの方法で課題を解決し、友だちと交流しながらさらに思考を深め、自分たちの学びを振り返る**ことで、**新たな課題を見つけていく**能力を子どもたちに育てていきます。

従来の学び

教員が主導する学び

ICT



教員が教える**教具**

変革

せたがや探究的な学び

子どもが多様な他者と共感・協働し主体的に課題を解決していく学び

ICT

子どもが**学びの主役**になるための**文房具**



アナログとデジタルの両方を使いこなし、自分の可能性を最大限発揮する

タブレットは、鉛筆やノートと同じく主体的に学ぶために欠かせない文房具となります。子どもたちは、はじめは使い方を教わり、回数を重ねるうちに使い馴染み、それぞれの特性を理解して上手に使えるようになります。

将来、社会の急激な変化に主体的に向き合い、より多くの人とコミュニケーションを取ったり、積極的に情報発信をしたりしながら、一人ひとりが自らの可能性を最大限発揮できるように、子どもの頃から、鉛筆やノートと同様にタブレットを使い、アナログとデジタルを組み合わせて使いこなせるようにしていきます。



デジタルを活用した学び



対面のよさを活かした学び



デジタル時代を生きる子どもたちに必要な情報リテラシー



これからの学びに欠かせないタブレットは、使い方を間違えると、さまざまなトラブルが発生することもあります。例えば、有害な情報に触れたり、コメントが「炎上」したり、生活リズムや健康に影響を及ぼしたりすることなどが挙げられます。そのために、子ども一人ひとりの使い方を見守りながら、その子にふさわしい支援をしていきます。

リスクがあるから 厳しく使用を制限

使う意欲が失われ、次第に使われなくなる。学びの可能性は広がらない…



リスクを理解した上で 安心・安全に利用

たくさんの情報が集められ、瞬時に共有され、対話を通して学びが広がる・深まる



一人で使うのではなく、**タブレットを介して友達や教員、保護者などつながり、対話をしながら**目的に合わせた賢い使い方を学んでいきます。

健康や生活リズムなどへの影響を大きくしないための取組み

学校で利用する場合、①教室の明るさ ②画面への映り込み ③目と画面の距離 ④利用時の姿勢 ⑤継続して利用する時間等に留意します。また、家庭での使用においても「寝る直前の利用を控えること」などについても呼びかけていきます。

大きな学習環境の変化となるため、日々の健康観察や、定期健康診断により子どもたちに大きな影響が及ばないように見守っていきます。

教員一人ひとりのICT活用指導力の向上を目指して



令和3年度、教育委員会は、ICT活用指導力に関する教員人材育成計画を基に、研修や研究を充実させ、教員のICT活用指導力の向上を図ります。また、学校に専門性が高いICT支援員を派遣して、教員のサポートも充実させます。今後、教員同士の学び合いを活性化させ、一人ひとりのICT活用指導力を高めていきます。



有識者によるオンライン教員研修



指導主事によるTeamsを活用した授業づくりについての校内研修



ICT支援員による初期操作のサポート